

### 3 - 9 相模湾の海底地形・地質構造

#### Submarine Topography and Geological Structure of Sagami Bay

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

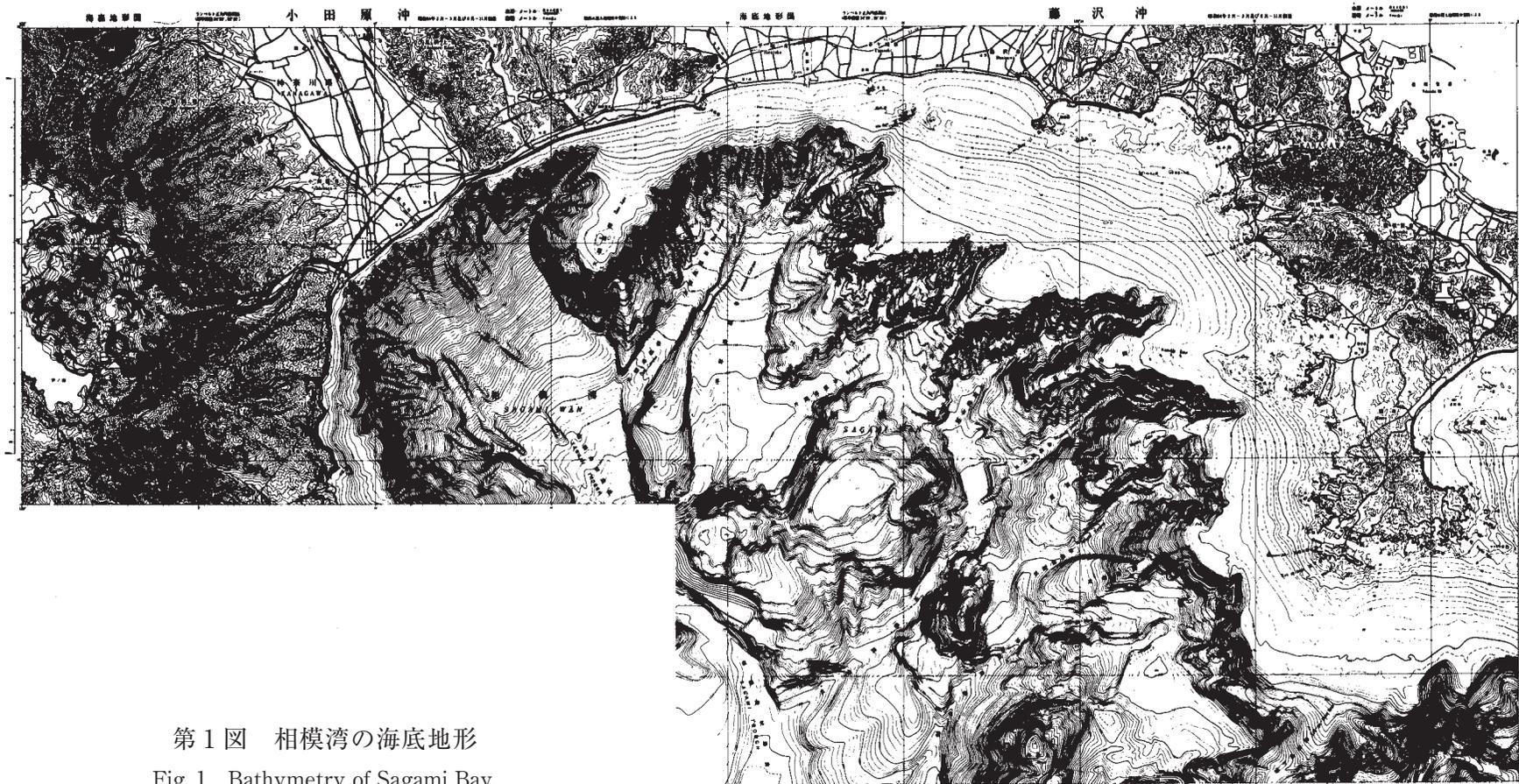
フィリッピン海プレート北端部の地殻活動に関する総合研究のうち、プレート北端部の造構運動の調査研究の一環として、小田原・藤沢沖の海底地形・地質構造の調査を、測深・音波探査により実施した。調査は東西方向 600m、南北方向 4000m 毎の標準測線間隔で実施し適宜補測を加えた。測位は電波距離測定機を使用し、測深は音響測深機により、葉山港に設定した基本水準面により測定した。音波探査は高出力のスパーカーによった。この結果から等深線間隔 10m、縮尺 5 万分の 1 の海底地形図、同地質構造図を作成した。

#### 海底地形（第 1 図）

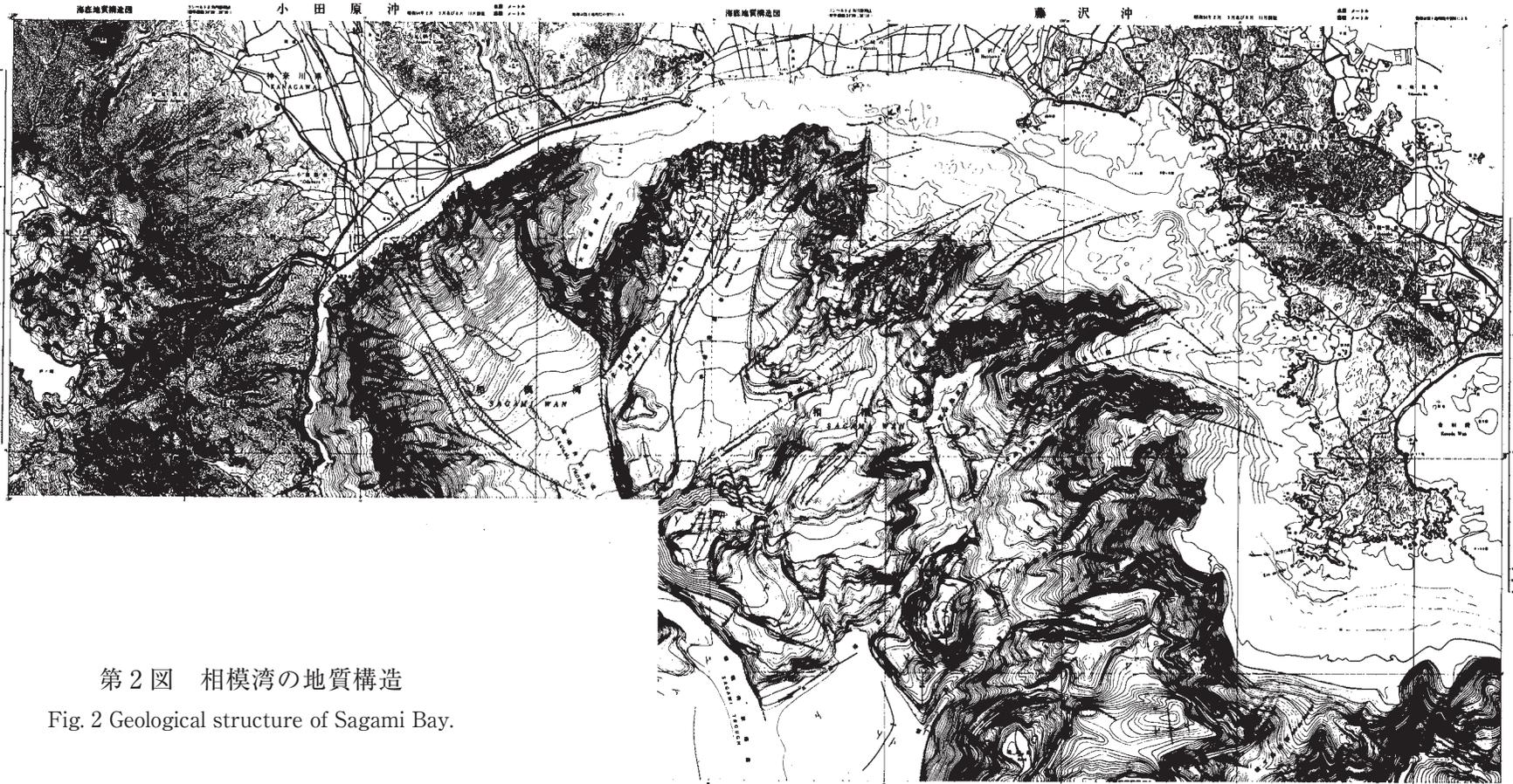
この海域の主要な地形要素の輪郭は明瞭な直線性を示す。南－北方同に伸びる多数の海脚が見られ、その海脚は北西－南東方向の谷で切られ鞍部となり、その沖側は海丘となっていることが多い。海丘は南西に面した急斜面で相模舟状海盆に落ち込む。海脚の間は幅の広い、緩傾斜の地溝状の凹地で、大陸棚に近づくと急斜した V 字谷となり、大陸棚外縁を蚕食して終る。地溝状の凹地は海丘と接する付近で大きく屈曲することが多い。海丘頂部には緩斜面が発達することが多い。相模舟状海盆は北西－南東方向及び南－北方向に屈曲した伸びを示し、陸上へは足柄平野と接続する。大陸棚外縁水深は 110～120m で、大陸棚は伊豆半島沖に狭く、足柄平野沖で極めて狭い。これに対して海脚部では大陸棚は沖に張り出す。

#### 海底地質（第 2 図）

音波探査により大きく 6 層が区分された。広域に明瞭に識別される不整合面を境に、上部 4 層を堆積層、下部 2 層を基盤とした。伊豆半島側斜面では内部構造が不明瞭である。相模舟状海盆ではその東縁が顕著な、北西－南東または南－北方向の断層で規制されているが、西縁は明瞭でない。（中嶋 逞）



第1図 相模湾の海底地形  
 Fig. 1 Bathymetry of Sagami Bay.



第2図 相模湾の地質構造  
 Fig. 2 Geological structure of Sagami Bay.